

介護保険を「悠悠と」応援

プロフィール

楽しみながら友達づくり

1950年4月13日、大阪府生まれ。高校を出て2年間日本全国を旅し、北大水産学部卒。大学時代はアイスホッケー部。自動車メーカー勤務を経て、88年帰国。99年現職。息子1人、娘1人の4人家族。特技は友達づくり。モットーは「楽しくなければ会社じゃない」。おひつじ座。血液型はA型。

会社

1999年8月設立。資本金2500万円。全国に株主29人。高齢者と家族のための地域生活情報誌・隔月刊「悠悠と」発刊。発行部数10万部。従業員3人。協力企業2社。所在地は札幌市中央区北1西22、プライムコート北1条。

介護保険がスタートして半年以上が経過した。依然として同制度に対する混乱や迷い、批判はあるが、制度創設を総論で認めている関係者は多い。エヴァナムはあくまでも読者の立場に立って、高齢者と家族のための地域生活情報誌「悠悠と」を発行している。創刊二周年目に入った同誌は、お年寄りやその家族に分かりやすい地域生活情報の提供を目指している。同社代表取締役の真鍋康利さん(五〇)も、「介護保険制度を良く育てる雰囲気は世の中に必要だ」と言う。真鍋さんの思いを聞いた。(後藤秀樹記者)

をしたい。今でも編集のスタンズは、専門家のお年寄りやその家族の側に立っています。読者の視点という事ですが、一年続けて創刊当初の、読者の

刊当初の考えに変化は。「感じている事は、お年寄りは本をなかなか読まない。文章量より、記事のエッセンスや要約を

の二、三は時々刻々と変わりますが、いかに楽しめようかと、いつも工夫を凝らしています。

「つまり、読者のニーズが予想した以上に多岐にわたっていたという事ですね。精いっぱい返ってきませう」

「創刊当初の、読者の視座という編集方針は。わりますが、いかに楽しめようかと、いつも工夫を凝らしています。」

「確かに、介護保険を対象にしたビジネスはありますが、『自立』の年寄りを対象にしたサービス会社も増えていきます。元氣そうなお年寄りの生活支援は、これから

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

フロンティア タイムス

株式会社 北海道21世紀タイムス
購読料(税込) 月決め2,000円1部売り100円
<http://www.frontier-times.co.jp/>

11月25日(土)

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、



「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

「情報はなかなか好た生活情報誌は、どうも必要だと考えています。お年寄りや家族の母が足を傷めた時、必要な情報を族のために地域に密着し、

楽しく、喜ばれる
必要な情報誌に

エヴァナム代表取締役 真鍋 康利さん

おひつじ座の本誌

次回は 道央青果協同組合理事長 中村 達朗さん